

2011 年度活断層学会若手優秀講演賞

授賞者： 遠藤香織・宮内崇裕

対象講演： 完新世離水海岸地形の高度と離水年代の再検討 ―相模トラフ沿いの巨大地震に伴う地震性地殻変動に関連して―，日本活断層学会 2011 年度講演予稿集，p52-53.

授賞理由：

遠藤会員は房総半島の離水海岸地形を丹念に調べ、相模トラフ沿いの巨大地震、特に元禄型地震に関するこれまでの考え方を、大きく転回させる可能性を示した。特に、高位離水海岸地形の検出・マッピングにより先行研究を進展させ、離水時期を知るためにサンゴや貝化石の年代測定を行った結果、内房では7面、外房で6面（比高数メートル以上）の完新世離水海岸地形を認めた。従来より数が多いことは、いわゆる元禄型関東地震の再来間隔の再検討を、また、内房と外房で数が異なることは、元禄型関東地震の地震像の再検討を迫るものである。さらに、内房の沼 I 面相当の年代として 2540yBP を得ており、今後の調査の進展によっては、新たな相模トラフの巨大地震像への大きな一歩となる可能性がある。本講演は、地元の利点を生かした綿密な現地調査に基づいて、これまで少数の歴史地震と海成段丘調査からつくられた地震像を再検討する視点を提供するものであり、高く評価される。